

漁況海況予報事業（情報交換推進事業）

本永文彦・大城り子*・運天さつき*・當間奈美*・高江弘子*・金城君代*

1. 目的及び内容

沿岸、沖合漁業に関する漁海況の調査、研究および資源調査の結果に基づいて、海況の変動や漁場の形成される位置、魚群の量などの予報文を作成する。さらに、漁海況情報を収集し漁業者に通報することにより、漁業資源の合理的利用と操業の効率化を図り、漁業経営の安定に資する。また、海況や資源の状態などあらゆる情報から、漁況あるいは資源の変動を予測する手法を開発改良し、予報の精度を高める。

本事業を実施するにあたり、毎月の漁獲記録が保存されたフロッピーディスクや、漁獲量集計に必要なセリ帳を提供していただいた関係漁協には厚くお礼申し上げる。

2. 方 法

漁海況情報の作成 曳縄（主にパヤオ）やかつお竿釣り、トビロープ、とびいか釣りなどの各地の漁獲状況について、1ヶ月に1度、漁協別魚種別漁獲量を整理し、「漁海況情報」を作成し水産関係者へ広報する。漁獲資料として、漁協作成による魚種別漁獲量の資料を用いた。

予報分の作成 かつお漁の初漁時期（4～6月）に沖縄島北西と宮古・八重山での漁況予測をし、漁期全般の漁模様についての情報を関係漁協に通報する。

生物情報の収集 カツオやキハダ、クロカジキ、とびうお類の魚体重量や銘柄別漁獲重量。

市場情報の収集 販売業務（セリ帳集計）にオフィスコンピュータ（オフコン）を導入している漁業組合を対象に毎日の販売データをフロッピーディスク（FD）に保存してもらい、それを漁獲統計の資料としている。これは、1989年1月以降実施している。また、オフコンを持たない漁業組合については、水産試験場でパソコンにより集計する。

3. 結果の要約

かつお竿釣り

沖縄周辺海域におけるかつお竿釣り漁獲量は、近年低調で推移している。沖縄島北西海域を漁場とし小型魚を主対象とする本部船の漁獲は、低調であった前2年を上回り平年並みの漁獲であった。

一方、夏季に回遊する中・大型魚を主体に対象とする宮古・八重山では漁獲好調であった模様。聞き取りによればこの4年間は順調な漁獲が続いている様である。

パヤオ利用漁業

しび（キハダ10kg未満） 沖縄島南東海域では、1985年以降は漁獲が増加傾向であったが、1990年に一転して急減し、その後は横ばいで推移している。これは高収入の期待できるキハダ中大型魚やソデイカ狙いの操業が増え、積極的に漁獲されなくなったことによると思われる。

きはだ（キハダ10kg以上） 沖縄島南東海域では1985年以降漁獲が増加していたが、1990年に一転して急減した。1991年は前年に比べて回復したが、春季漁の漁獲は少なかった。1992年は盛漁期である

* 非常勤職員

春季漁に加えて7～11月の漁獲も好調であったことから、過去8年間で最高の漁獲であった。

クロカジキ 沖縄島南東と与那国島では、1988年の不漁の後、翌1989年に若干回復したが、1990年に再び不漁となった。その後1991～1992年は漁獲が低調で推移し、1988年以降低水準の漁獲が続いている。これまで、両海域での漁獲の年変動が同傾向であることから、本種の漁況変動は第一に沖縄近海への回遊量に左右される可能性が高いと考えられ、本種の回遊及び資源動向に注意が必要である。

シイラ 1985年以降の漁獲は増加傾向を続けており、1992年も高い漁獲量であった。漁期は春季と秋季であるが、いずれも好調である。